

令和 6 年度 北九州市立 松ヶ江中 ス ク ー ル プ ラ ン

令和 6 年度 学校教育目標	校訓「誠実・勤勉・礼儀」にのっとり、思いやりの心を持ち、新たな価値創造に挑戦する中で、母校への誇りをはぐくむ生徒の育成
----------------	---

本年度の重点				年度末評価	
	重点目標 及び 指標		重点的取組	評価	○成果 ◆次年度に向けた方向性・改善点
子どもの学びに関すること	重点目標	学びの主体者としての子どもの育成	○「スクタン・ビュー」を活用しつつ、教育委員会が示す「学びの質を高める授業づくり5つのポイント」を意識した授業づくりを行う。 ○生徒並びに教員のICT活用の資質向上を図るために、教育DXにおけるハード面、ソフト面の充実を図り、ICT機器の活用頻度を高める仕組みづくりを行う。	A	○本年度、「学校情報化認定制度優良校」に認定された。教育DXを踏まえた授業改善に取り組んだ結果、授業におけるタブレット端末の活用が日常的になった。また、スクタン・ビューをもとに授業分析を行うことで、今後の授業改善の課題を明確にすることができた。 ◆次年度の端末の機種変更に伴い、新たなソフトやアプリをどう授業に活用していくかについて、研究・研修を進めていく必要がある。
	指標	<学校生活アンケート> ◆「『どうすればできるだろう』『なぜだろう』などの問いをもち、『おもしろそう』『やってみたい』と主体的に学習することができた」と、肯定的な回答をした生徒の割合（授業改善）[80%以上] <学習状況調査アンケート> ◆「学校の学習で、ICT機器を週3回以上活用している」と回答した生徒の割合[100%]			
子どもの心の育ちに関すること	重点目標	前向きに挑戦しようとする子どもの育成	○人権教育の充実を図るとともに、業務改善にも努めながらも費用対効果を考慮し、生徒が自分自身の長所を発揮したり活躍したと感じたりできる場を効果的・効率的に設定する。 ○学年の枠を超えた情報共有を促進し、進路指導の充実、不登校やいじめ事案等の問題の未然防止・早期解決・再発防止に努める。	A	○生徒が主役となり活躍できる行事を充実させることができた。 ○本年度、市の長期欠席・不登校対策モデル校として、不登校対応、ステップアップルームの有効活用等についての研究を進め、その成果を全市に発信することができた。 ◆業務改善を念頭に費用対効果を考慮しながら、生徒個々が主役となり活躍できる取組を精選していく必要がある。
	指標	<学校生活アンケート> ◆「嫌だと感じるようなことや、難しいと感じるようなことがあっても、あきらめることなく、『よし!やってみよう』と前向きに挑戦することができた」と、肯定的な回答をした生徒の割合（自尊感情を高める取組）[90%以上]			
子どもの体力に関すること	重点目標	体を動かすことに喜びを感じる子どもの育成	○全生徒が主体的に運動にかかわりながら効果的に運動技能を身につけ、「できる」喜びを味わえるように、課題設定を大切にした授業展開の工夫を行う。また、運動量に視点を当て、生徒一人一人に達成感が得られる授業展開の工夫を行う。	A	○熱中症予防等、生徒の安全を考えた上で、生徒が運動に親しみながら体力向上を図る保健体育科学習、また、体育的行事、部活動を実施することができた。 ◆業務改善と体力向上の兼ね合いを考慮し、体育的行事の精選を図る必要がある。
	指標	<学校生活アンケート> ◆「体育科の授業や部活動、学校生活外において、体を動かすことに喜びを感じている」と、肯定的な回答をした生徒の割合[90%以上]			
小中一貫教育に関すること	重点目標	小中一貫の教育課題の解決	○R5年度のコミュニティー・スクールで確認された中学校区共通指導内容「あいさつ」「黙働」の指導の充実を図る。 ・「あいさつ力の向上＝コミュニケーション能力の向上」を理念とし、教師・生徒間のあいさつの充実を図る。 ・「掃除時間＝心磨きの時間」を理念とし、清掃活動の充実を図る。	A	○「あいさつ」「黙働」ともに習慣化が図られている。小中9年間を見越した「あいさつ」「黙働」の指導カリキュラムの共通理解が図られた。また、次年度に向けて「情報活用能力」の指導カリキュラムの概案を作成できた。 ◆「情報活用能力」の指導カリキュラムの妥当性を検証していく必要がある。
	指標	<学校生活アンケート> ◆「進んであいさつができている」と、肯定的な回答をした生徒の割合[90%以上] ◆「学校でのそうじをがんばっている」と、肯定的な回答をした生徒の割合[90%以上]			
業務改善に関すること	重点目標	働きやすい職場づくり	○業務改善委員会を開催し、組織的に業務改善の企画・運営を行っていく。特に、期限やゴールを意識した働き方の促進を図る。 ○生徒指導等の問題事象の未然防止に努め、指導の平準化を図るための指導基準を適宜協議していき、明文化していく。	B	○業務改善委員会を毎月開く中で、様々な視点で働き方を見直すことができ、業務改善に役立てることができた。 ◆部活動の指導（土日の大会を含む）が、職員の在校時間が長くなる一番の要因である。全職員が労働基準法を厳守できる部活動の在り方について考えていく必要がある。
	指標	◆一か月の時間外勤務が平均45時間以下（年間360時間以下）の職員の割合[100%] ◆年間の年次休暇取得12日以上[100%]			

「学校運営協議会委員」等からの意見を記入	○校訓「誠実、勤勉、礼儀」を生徒一人一人が日々心に刻み込むような指導があれば、生涯に渡って実践されるのではないかと思います。 ○ICTの活用により自主的な学習が多くなっていることはよいことだと思います。読書に触れる機会が増えるとよいと思います。 ○「進んであいさつ」や「社会の決まりを守る」などの基本的な習慣はしっかりと身につけています。中学生と地域で接する機会でも、その成果が発揮できていると感じます。 ○部活動の在り方については、民間に依存すると、貧困の格差の影響も懸念されますし、他の方法も長短があって難しい問題だと考えます。
----------------------	--